

教員氏名：塩田 賀津子（現代コミュニケーション学科／准教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

現代コミュニケーション学科に所属し、自らの専門領域である「英語・異文化」「教職」関連科目を担当するほか、キャリア関連科目においては就職活動にかかる指導・サポートを、ゼミにおいては1年生対象ではコミュニケーションスキルの、2年生対象ではアカデミックスキルと卒業抄録執筆の指導・サポートを行っている。

現在の主な担当科目一覧

* 英語・異文化

Integrated English Skills/Integrated English Skills I

Academic Writing

Current English

English Presentation

Intensive Reading

American Culture

Idiom and Vocabulary

異文化・異言語研修/海外研修

* 教職

英語科教育法

中学校教育実習

中学校教育実習指導

教職実践演習（中）

* キャリア関連

キャリアプランニングⅢ

キャリアプランニングⅣ

* ゼミ

基礎研究Ⅰ

基礎研究Ⅱ

卒業研究Ⅰ

卒業研究Ⅱ

2. 教育の理念（なぜやっているか）

自律した学習者になることを目指した授業

「学生」の学びは「生徒」のそれとは違い、自分の経験や知識をもとに、自分の頭で考え、自分で決め、自分で実行する力を養うためと考える。

英語に関して「小学生の頃から何年も勉強しているのに実際に使える気がしない」との相談を頻繁に受ける。その理由の一つにはこれまでの学習が「受け身」だったからにほかならない。外国語学習（のみならず、おしなべて何かを習得する）には長い年月がかかる。中長期的な教育の目的は、学生らに新たな学習姿勢や学習方法の扉を開かせ、自律した学習者となるよう足場をかけ伴走することにある。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

実践的・実用的な授業にするために

*講義は必要最小限と心がけるだけでなく、口頭説明に偏らず五感を刺激するような資料を提示する等記憶に残りやすくする工夫を施し、実際の使用（英会話、ディスカッション等）へのレディネスを促す。

*教材の選定は、学生の生活や将来のキャリア、留学などニーズ・興味に基づき行う。

*学んだことを授業内ですぐに使えるような活動をなるべく取り入れている。（例：英語科目においては、英文法を意識したカードゲーム作成など）

*フォーマル・インフォーマルを問わず、発言・発表の機会をできるだけ多く提供している。まずは「自分の話（英語）が理解してもらえてうれしい」「発言する（英語を使う）ことは楽しい」と体感させ、実際の体験を通じて「これでよかったのかな」「もっと上手になりたい」との振り返りを促して改善へと導き、回数を重ねることでスキルを向上させるだけでなく「間違っても大丈夫」というメンタリティをも育成することを狙いとしている。

学習環境を最適化するために

ペアワーク、グループワークの機会をできるだけ創出している。協同作業やペアやグルー

ブ対抗の競争を通じて集中力を高め、「恥」の意識を軽減し、「お互いに学び合う仲間」という意識をたかめる。パフォーマンスの共有やポジティブなフィードバックも欠かせない。こうして生まれた温かく明るい雰囲気の中では、欠席者も少なく、資格検定試験合格や就活の成功を目指した環境下でも励まし合える意識が芽生えやすい。

学生との関係構築のために

自律学習ができるまでに育てるには教員のサポートが欠かせない。例えば英語科目においては、毎回事前学習と事後学習をあわせ 120 分間以上になるよう「学んだその日に復習ができているか」「毎日少しずつ自分の定めた目標に向けて学習を進められているか」を確認できる課題を設定し、Google Classroom へ提出させている。提出された課題には一人一人にコメントと評価を記して返している。「自分の学習は見守られている」という感覚を与えるため、コメント欄は相互を結ぶスペースであると認識させ、学生からいつでもコメント返しや質問ができるようにしている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

学生からの評価

勤務校での教員歴は 8 年になるが、この間ずっと学生の声に耳を傾け改善を図ってきた。英語科目をはじめとし、どの科目も講義色・個別作業色が強めだった初期から比較すると、授業中の学生の表情が明るくなり挙手などの積極性が増したと感じている。勤務校が実施する授業改善アンケートの結果に大きな数値的な変化は感じられないが、「自分で考える（決める）」「学んだことをすぐに使ってみる」ということ「仲間と学ぶこと」は、独自に採取するアンケートやインタビューによれば、学生のモチベーション向上・維持に寄与し、さらにスキルを向上させていると思われる。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

学生のスキルに見る課題

* 英語科目

「日本語で」学んできたからとみられる弊害が散見される。例えば「過去形」とは時間軸での感覚を引きずっており、婉曲用法などの日常的に使用される文法項目との結びつきが

弱い。日本語干渉を強く受けた作文も散見される。英語の授業は「英語で」行うべきと言われて久しいが、英語オンリーで学ぶことにはデメリットもあることから安易には採用せず、学生が身にしみつけてしまった弊害を取り除くためにはどうすべきか、これからも丁寧に考え授業をデザインする必要がある。

* 教職科目

「楽しく授業を行いたい」との理想を掲げる学生は多いが、たいてい「楽」か「賑やかで笑いが絶えまない」イメージを持っている。「楽しい」学習・授業とはいかなる心理状態でありいかなる環境下で実現されるものかについて、より深く考えさせたい。

* その他全般

多感な年ごろである学生は心身ともに体調を崩しやすく、際立った特性を持つケースもある。それぞれに最適なタイミングで合理的な配慮をせんと心がけるものの、自らの専門知識は十分とは言えずこの点今後の課題であると言える。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

1 学生からのコメント（令和5年度後期勤務校実施の授業改善アンケートおよび独自で採取したアンケート、いずれも自由記述回答より）

* 一人一人に寄り添ってくださっていて、暖かい雰囲気のできたので良かったです。パワーポイントを作る際に丁寧な指導や分かりやすい記事を提示してくださったので参考になりました。（「卒業研究Ⅱ」）

*（カードゲームは）英語を学ぶだけでなく学年が違う先輩とも仲良く、英語でゲームをすることができ、コミュニケーションが取れる良い機会だと思った。（「Integrated English Skills I」）

* カード（ゲーム）を作りながら疑問文や助動詞について楽しく復習できたし、皆が作ったものを共有できて新しい発想を得ることができた。（「Integrated English Skills I」）

2 「疑問詞」「助動詞」についての学びを定着させるための活動の一環として、授業中に学生が共同で作成した「英語で UNO」

ティーチング・ポートフォリオ



(2024年8月30日現在)